



コラム

活動者の目から見た安全・安心まちづくり

地域の気遣い役として活動する地域防災支援担当者の委嘱式が7月10日に行われ、総勢20名の体制となりました。委嘱式後の研修では、「～防災・減災～『地域コミュニティと連携から』」と題して、奈良県安全・安心まちづくりアドバイザーの坂口幹彦さんにご講演いただきました。今回は、その講演の概要と避難に対する一つの提案について、ご本人から寄稿していただきました。



「自主防災会」のあるべき組織とは？

- 1) 自主防災会の組織は「継続性」「成長性」が最も大事。
- 2) 自治会の延長のような形だけの自主防災組織ではなく、【別組織】の活動、運営が望ましい。
- 3) 「行政が作ってくれと言うから……」とか「補助金が出るから……」で、自主防災会を作ったのでは成長しない。
- 4) ≪自分の住む町は、自分たちで守る≫という強い意志が大切。
- 5) 自主防災会の活動は、あまり「防災、防災」と力まずに、日頃から「地域に根ざした活動」を心がける。

地域の防災意識を高めていくには！

朝倉台自主防災会は、上記5項目に留意して運営しておりますが、特に5番目の「あまり『防災、防災』と力まずに、日頃から『地域に根ざした活動』」を重点に永年取り組んできています。

○「朝倉台安全・安心ネットワーク」を形成し、安全で安心な住み良いまちづくりを目指してネットワークの団体と連携しながら活動しています。ネットワークの団体は、朝倉台自治会、朝倉台自主防災会、ボランティア朝倉台、民生児童委員、朝倉台盛春クラブ(老人会)、地域福祉委員の5団体。

○地元・桜井市立朝倉小学校への支援は、学校防災教室のほか、小学校の農園の管理、学年別体験学習、校舎周辺の清掃作業や児童の登・下校時の見守りなども行っています。

○地元・桜井市立桜井東中学校へは、学校防災教室支援のほか、校庭の草刈り清掃作業も実施しています。

○自治会主催の「朝倉台夏祭り」への積極支援や「朝倉台子ども餅つき大会」、「公園の清掃作業」などにもボランティア団体と共に連携して活動しています。

私たちは、「自分の住む町のいろいろな問題は、まずは、自分たちで何とか解決していき、自分たちでは資材も専門知識もない、どうにもならないことは、行政に解決の依頼をする」という姿勢で地域活動をしていますので、行政側からもそれなりの評価と対応をいただいております。

防災への備えも同じで「自守防災」の心構えで自治会と密に連携して運営活動しておりますが、地域で地道な活動を続けていくことによって、最終的に地域防災の意識も高まっていくのではないのでしょうか。

その他の地域に根差した活動は、朝倉台自治会ホームページに掲載していますので是非ご覧ください。

行政から避難情報を発信しても『人』はなぜ逃げないのか？

みなさんは『沈没船ジョーク』をご存知でしょうか？これは、国民性を端的に表したジョークの話で大変面白いです。

世界各国の人々が乗った豪華客船が沈没しかかっています。脱出用のボートが足りないので船長が乗客を海に飛び込ませようとして放った言葉は？

- ◆アメリカ人に対して・・・『飛び込めば、ヒーローになれますよ！』
- ◆ロシア人に対して・・・『海にウオッカのビンが流れていますよ！』
- ◆イタリア人に対して・・・『海に美女が泳いでいますよ！』
- ◆フランス人に対して・・・『決して海に飛び込まないで！』
- ◆イギリス人に対して・・・『紳士はこういう時、海に飛び込むものです！』
- ◆ドイツ人に対して・・・『規則ですので海に飛び込んでください！』
- ◆中国人に対して・・・『美味しい食材（魚）が泳いでいますよ！』
- ◆日本人に対して・・・『みなさんは、もう飛び込みましたよ！』

おまけ

- ◆関西人に対しては・・・『阪神が優勝しましたよ！』
・・・ジョークですよ！

あれだけ怖い目にあった東日本大震災後の東北でも、避難・防災訓練の参加者が少なくなっている。

もう、あのような巨大地震は起こらないだろうと……

なぜでしょうか？

とある新聞でこのような記事を見つけました。日本人は、狩猟民族でなく農耕民族なので村意識が強く、みんなで渡れば怖くない、という言葉もあるように、みんなで助けあったり共同で作業したりして行動するので、常に周りを気にして一人で行動することはあまりしない、と……

一つの提案ですが……

今回修正の自治体・気象庁が発信する1～5段階の警戒レベルの「避難情報」でも、まだ具体的な危機感が伝わりづらいと思います。

～地域での避難の呼びかけには、より具体的に発信する方が良いのでは～

例えば

- ・傾斜地域にお住まいの方には→○○山が土砂崩れになりそうだ！
- ・川沿いにお住まいの方には→○○川の水位が危険水位を超え堤防が決壊の恐れが出てきた！
- ・海沿いにお住まいの方には→津波警報⇒『大きな津波が来るぞー』大声を出しながら走り回る！

等と、より住居地域に沿った具体的な発信が大切だと思います。

避難遅れの最大の要因は、「他の人も逃げていないから自分も大丈夫」との危機意識の無さだとも言われています。日本人特有の「他の人は？……」ではなく、自分の命の危険度を知ることから始めてほしいものです。

【プロフィール】

奈良県安全・安心まちづくりアドバイザー 坂口 幹彦

桜井市朝倉台自主防災会（平成18年度奈良県防災功労者知事表彰、平成30年度第9回あしたのなら表彰知事表彰を受賞）副会長。ボーイスカウト歴30年の野外活動を活かして「そなえよ、常に」をモットーに、いつ起こるかわからない自然災害に備えて、地域の防災・減災活動を行っている。県下各地からの要請を受け「防災訓練」の支援や「防災講演会」に出講。また、「学校こども防災教室」「放課後学童クラブ子ども防災教室」に出講。